



1. 15日金曜日、イエスと弟子たちの過越の食事、伝統的なユダヤの手順に沿う。ユダの裏切りの予告が3回されユダが席を抜けたあと、第三の杯（贖いの杯）で新しい契約の宣言。
2. 過越の食事の後、二階部屋での説教
3. イエスと弟子たちは二階部屋から出発、エルサレムの町を出て、ゲッセマネの園に向かう。ゲッセマネへの道すがらの教え、「まことのぶどうの木とその枝」。
4. ゲッセマネの園に近づいた辺りで、イエスが大祭司としての祈り。
5. 金曜日の夜10時~11時頃、ゲッセマネの園での祈り
6. ゲッセマネの園で、イエス逮捕
7. 深夜から夜明け後にかけて、ユダヤ法による裁判
 - (1) 前の大祭司アンナスによる審問
 - (2) 大祭司カヤパの前での裁判
 - (3) ペテロの失敗
 - (4) 夜明け後、サンヘドリンの前での公式裁判
 - (5) ユダの死
8. 15日早朝から午前6時頃までの間、ローマ法による裁判
9. 15日午前9時~午後3時十字架、夕方に埋葬
10. 墓に番兵がついて、墓を封印。
11. 安息日が終わり、市場で婦人たちが香料を買う。
12. 天使が降りて墓を開く。番兵はしばらく動けず、その後、墓から逃げ出す。
13. マグダラのマリヤが墓に来る。墓が開いているのを見て、戻り、ペテロとヨハネに報告。
14. マグダラのマリヤが墓を離れたすぐ後に、他の婦人たちが墓に来る。天使たちの話を聞いて、戻り、使徒たちのところへ。このとき、ペテロとヨハネは墓に向かっていて不在。
15. ペテロとヨハネが墓に着く。マグダラのマリヤも後からついて来ている。墓の中にある亜麻布の状態を見て、ヨハネは復活を信じる。ペテロはまだ理解できない。
16. この間、番兵たちは、祭司長たちに報告。祭司長たちは、真相を隠してデマを流す。
17. 復活のイエスの現れ 1回目から5回目は、17日(日)。ただし、5回目は日没後か？
 - 1回目：墓にてマグダラのマリヤ。2回目：墓から戻り報告を終えた婦人たちに。
 - 3回目：エマオ途上の二人の弟子。4回目：ペテロ。5回目：トマスを除く使徒たち
18. 復活のイエスの現れ 復活から8日後、6回目：トマスを含む使徒たち
19. 復活のイエスの現れ ガリラヤにて、7回目から9回目
20. 復活のイエスの現れ 10回目は、エルサレムのオリーブ山にて。イエスの昇天。

聖書箇所

1. 墓の封印 (マタイ 27 : 61~28 : 1)

- (1) 61 節 15 日夕方、二人の婦人が埋葬を見守った。
- (2) 62~64 節 日没後 (「次の日、すなわち備えの日の翌日」 = 16 日・安息日)、祭司長とパリサイ人たちはピラトのところに集まり、「三日後によみがえる」というイエスの預言に惑わされないように、墓の番をするように求める。
- (3) 65~66 節 ピラトは、兵士の派遣に同意した。
 - ① 墓は、石灰岩の岩盤に掘られた横穴式の墓で、入り口は、円形の石の板をころがして、塞ぐタイプ。この石の板の上に、ロープをたすき掛けにして、5 か所に封印したと思われる。
 - ② 封印は、粘土やロウを使用し、その上にローマの印を押す。この封印を破ると、死罪。それを阻止できなかつた番兵も死刑になる。
- (4) マルコ 16 : 1~3 安息日が終わり、日は改まり「週の初めの日」、17 日となる。
 - ① 日没後には店が開く。3 人の女たち (マグダラのマリヤ、小ヤコブの母マリヤ = クロパの妻マリヤ、そしてサロメ = イエスの母マリヤの姉妹) が、店に行つて香料を買った。
 - ② 夜が明けて、日が上がったときに、墓に来た。
- (5) マタイ 28 : 1 その夜が明けて、週の初めの日の明け方。女たちが墓を見に行つたという総括的な記事。

2. 開いた墓

- (1) 女たちが墓に着いたときは、すでに墓の石は取り除けられていた。まず、その経緯についての説明 (マタイ 28 : 2~4)
 - ① 天使が降りて来て、石の板をわきへころがし、その上に座った。そのとき大きな地震が起こった。この地震は、イエスが復活した瞬間を示す。
 - ② 天使の顔は稲妻のように輝き、その衣は雪のように白かった。
 - ③ 番兵たちは天使を見て震え上がり、動けなくなった。
 - ④ しばらくして体が動くようになり、墓から逃げ出した。
 - ⑤ (天使は墓の中に入る)
- (2) 女たちは全員がいっしょに墓に着いたのではない。マグダラのマリヤが先にひとりで到着。そのときの経緯は、ヨハネ 20 : 1~2
 - ① マグダラのマリヤが、先にひとりで墓に着く。
 - ② 墓が開いているのを見て、てっきり誰かが遺体を取っていったと思い、墓の中に入らずにすぐ戻って、この異変をペテロとヨハネに知らせる。
- (3) マルコ 16 : 3 マグダラのマリヤのあとに、別の婦人たちが墓に着く。彼女たちは、入り口の石をころがしてくれる人は誰かいるのか、と案じながらやって来る。
- (4) ルカ 24 : 1~9
 - ① 1~2 節 婦人たちが墓に着くと、すでに石はわきへころがしてある。
 - ② 3~7 節 墓の中に入ると、遺体がない。ふたりの天使が現れ、婦人たちに話しかける。話したのは、二人の天使のうちのひとり (マルコ 16 : 5~7)
 - ③ 8 節 婦人たちは、イエスのみことばを思い出した。
 - ④ 9 節 婦人たちは戻って、使徒たちに報告した。このとき、ペテロとヨハネは行き違いで墓に向かつており不在。報告を受けた使徒たちは信じなかつた。

● マルコ 16 : 8 と追加文

- (5) ヨハネ 20 : 3~10 ペテロとヨハネが墓に走って来る。そのあとに、マグダラのマリヤもついて来ている。
- ① まず足の速いヨハネが先に着く。からだをかがめてのぞき込む。中には入らないが、亜麻布が置いてあるのが見えた。
 - ② 次にペテロが着く。ペテロは墓の中に入る。亜麻布が置いてある。イエスの頭に巻かれていた布きれは、亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっている。
 - ③ ヨハネも中に入ってくる。ヨハネはこの状況を見て、(復活を) 信じた。
 - ④ ペテロはまだ状況を理解できない。
 - ⑤ 9 節の「彼ら」は、「ペテロとヨハネ」でなく、使徒たち全体を指す。この中で、例外的にヨハネはこの時点で復活を信じた。
 - ⑥ 墓に居続ける必要はないと判断して、「自分たちのところ」、エルサレムの町の中の集合場所 (他の使徒たちと会える場所) に帰った。
 - ⑦ マグダラのマリヤは帰らずに、墓のところにたたずんで泣いていた。
3. 復活のイエスの顕現 (①・②) 週の初めの日の明け方以降
- (1) 1 回目 マグダラのマリヤに ヨハ 20 : 11~18、マコ 16 : 9~11
 - (2) ヨハ 20 : 17→イエスは天に上り、天の幕屋を清め、再び地上に現れる。
 - ① ヘブ 9 : 11~12、23、10 : 12~13
 - ② エゼ 28 : 18 「あなたの聖所 (複数形)」 (レビ 21 : 23、26 : 31、エレ 51 : 51 : アモ 7 : 9)
 - ③ 大祭司が贖罪の日に行くこと : この過程では、誰にも触れられてはいけない
 - 大祭司の衣装を脱いで (色彩豊かな衣装)、儀式的清めを行う
 - 贖罪の日の衣装を身につける (亜麻布の装束)
 - 贖いの蓋の前にやぎの血を振りかける
 - 再度、儀式的清めを行い、大祭司の衣装を着る
 - (3) 2 回目 女たちに マタ 28 : 9~10
 - ① 天使に会った女たちが、使徒たち (ペテロとヨハネは不在) に報告したあと、すこし時間が経過している。イエスが彼女たちに出会って、「おはよう」と声をかけた。このあいさつは「カイロウ (喜べというニュアンスが込められたあいさつ)」で、口語訳は「平安あれ」。
 - ② ガリラヤに行けとの命令は 3 回目 (1 回目はイエスから=マタ 26 : 32、2 回目は天使たちから=マタ 28 : 7)
4. 番兵たちの報告と祭司長たちの陰謀 (マタ 28 : 11~15)
5. 復活のイエスの顕現 (③・④・⑤) 週の初めの日のうちに
- (1) 3 回目 エマオ途上の二人の弟子たちに ルカ 24 : 13~32
 - ① 13 節 エマオ=エルサレムの北西 60 スタディオ (約 11 km) の村
 - ② 18 節 クレオパ=のちに、エルサレム教会の指導者となる。イエスの兄弟ヤコブ→クレオパ (紀元 70 年のエルサレム崩壊)
 - ③ 旅の途中で知らない人が会話に加わるのは、ユダヤ人には普通のこと。
 - ④ 27 節 その人は、旧約聖書全体がメシアを指し示していることを教えた。
 - ⑤ 29 節 夕刻が近づいたので、二人の弟子はその人も引きとめて宿をとる。

- ⑥ 30~31節 その人がパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡したとき、弟子たちはイエスであるとわかった。
- (2) 4回目 ペテロに (ルカ 24:34、I コリ 15:5)
- (3) 5回目 トマスを除く使徒たち (10人) に (マコ 16:4、ルカ 24:35~43、ヨハ 20:19~25)
6. 復活のイエスの顕現 (⑥) 8日後=次の週の初めの日
- (1) 6回目 トマスを含めた使徒たち (11人) に ヨハネ 20:26~31、I コリ 15:5
7. 復活のイエスの顕現 (⑦・⑧・⑨) ガリラヤにて
- (1) 7回目 ガリラヤ湖畔 ヨハネ 21:1~23
- ① 2節 7人の弟子たちが、ガリラヤ湖で漁をする。
- ② 4~6節 岸辺にイエスが立つ。舟の右側に網をおろせと言われる。ルカ 5:1~11、召命のときの状況とよく似ている。イエスとわかる。
- ③ 15~23節 ペテロへの3回の問いかけと応答、そして殉教の死の予告により、ペテロが回復される。
- (2) 8回目 500人以上の信者たちに (マタ 28:16~20、マコ 16:15~18)
- ① 16節 イエスの指示された山 (I コリ 15:6 500人以上の兄弟たちが参加)
- ② 17節 弟子たちが初めてイエスを礼拝する。「ある者は疑った」=11人の使徒以外の参加者で、初めて復活のイエスを見た者の中には、疑った者もいた、という真実味のある記録。
- ③ 18~20節 大宣教命令。「世の終わりまで」=メシアの再臨まで
- (3) 9回目 イエスの弟ヤコブに I コリ 15:7
- ① エルサレム教会の長となる・・・使徒 12:17、15:13、21:18
- ② ヤコブの手紙の著者
- ③ 第2グループの使徒 (パウロ、ヤコブ、バルナバ)
- 使徒の条件 (第1グループ=公生涯の最初から昇天までの目撃者、第2グループ=I コリ 9:1 復活のイエスに出会ったこと)
8. 復活のイエスの顕現 (⑩) 11人の使徒たちに (I コリ 15:7「使徒たち全部に」)
- (1) イエスによる聖書の解き明かし (ルカ 24:44~49)
- ① メシアは、苦しみを受ける (詩 22、イザヤ 53)
- ② 死んで三日目によみがえる
- よみがえる (詩 16:10)
 - 三日目に (ヨナ 1:17、参考ヨハ 2:18~22、マタ 12:40)
 - イスラエルの民族的救いも三日目 (ホセ 6:2、参考マタ 24:28)
- ③ イエスの名によって、罪の赦しを得させる悔い改めのメッセージがエルサレムから始まって、あらゆる国の人々に宣べ伝えられる。
- ④ 聖霊が注がれるという預言 (イザヤ 44:3、エゼ 36:27、ヨエル 2:28)、その予表がやがて起きる (→使徒 2章)
- (2) イエスの最後の命令 (使徒 1:3~8)
9. 昇天 (使徒 1:9~12、マコ 16:19~20、ルカ 24:50~53)

今月の集会予定：21 (土) 福岡、22 (日) 門司港、28 (土) みやま、29 (日) 熊本